
黄昏の街

滾

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黄昏の街

【Nコード】

N8261A

【作者名】

滾

【あらすじ】

“僕”の住む街にある噂、黄昏の街。“僕”はメールを見ながら、何を思うか。

僕の町にはある噂がある。

それは“黄昏の街”、という話。

僕の町に住んでいる人は大概この話を知っていて、嫌っている。
だから僕は、その話を学校で皆に話したんだ。

僕の携帯にメールが来た。

From 「タケシ」

題 「迷った」

本文 …やばい、迷った。ここどこか解らないかな？交番がある
んだけど、ここからどうやって行けばお前の家に着く？

From 「タケシ」

題 「交番はもういい」

本文 …いや、そっちの交番じゃなくて、南のほう。ってかもう
いいや。なんか一本道に出たから、そっちを突っ走ってみる。

From 「シンヤ」

題 「おい、ここはどこだ」

本文 …ここはどこだああああ！今自分がどこにいるのかワカ
ラネエ！

From 「シンヤ」

題 「やばい」

本文 …マジで迷った。写真添付して送るから、教えてくれ。

From 「アッシ」

題 「迷子だ」

本文 …お前の家に行こうとしたら迷ったぞ。

From 「タケシ」

題 「いま六時だよな？」

本文 …おい・・・、おかしいよ・・・。今六時過ぎてるのに、
何でこんなに明るいんだ？絶対おかしいだろ？

From 「シンヤ」

題 「このやろう！」

本文 …あ？解らないじゃ困るんだよ。どうするよ？もう三時回
ってるぞ？早く行かないとお前の家に行くの遅くなるんだけど。

From 「カズヤ」

題 「待つとけ」

本文 …お前の家ってどこだっけ？今駅出たから、あと三十分く
らいで着くわ。てか十二時回ったから、適当に飯食ってから行く。

From 「タケシ」

題 「おかしい」

本文 …ここ、おかしいって。何にもない。誰も居ない。しかも、
なんで太陽が出てるんだ？もう七時回ってるのに・・・。

From 「カズヤ」

題 「そろそろ」

本文 …交番が見えてきた。南のほうの。多分そろそろだと思っ
から、ゲーム用意して待つとけよ。

From 「アツシ」

題 「やべえ」

本文 : なんか交番が見えるんだが、こんな所に一本道あったわけ？南の交番にいるんだけど、どっちに行けばいい？一本道？どれとも大通り？

From 「サトミ」

題 「急に何？」

本文 : 急に何よ？今日はぐっすり眠る予定だったのに！まだ九時だよ！？今駅前だから、待ってなさい。

From 「カズヤ」

題 「交番」

本文 : 交番の横に道あったけど、あっちじゃないかな？

From 「シンヤ」

題 「どこ？」

本文 : お前の家が見つからない。てか日が傾いてきた。俺もう帰るわ。もう四時過ぎてるし、やることないだろ。

From 「カズヤ」

題 「勘弁して」

本文 : なんだよ、あっちかよ。一本道、あんな所にあったわけ？

From 「アツシ」

題 「お前なあ」

本文 : お前に言われたとおりに一本道の方向行ったら、なんかワケ解らん道に出たぞ？てか今日日が沈むの早くないか？まだ三時なのに、もう夕暮れみたいになってんじゃない。あれか？ 異
常気象ってやつか？

From 「サトミ」

題 「疲れた・・・」

本文 ……何でこんなに田舎なの・・・？畑ばかりで家が見つからないよう・・・。さつき交番の隣過ぎたけど、あっちの一本道だっけ？そっだったら引き返さなきゃだけど・・・。

From 「シンヤ」

題 「ここはどこ？私は誰？」

本文 ……やばいぞ。お前の家から引き返そうとしたのに、全くどこに居るのか解らない。やっぱりさつき、一本道と追ったのがまずかったか？こっちじゃなかったか？やべえな、この勢
い
だともう暗くなるんじゃないやねえ？

From 「カズヤ」

題 「解らない」

本文 ……なあ、どんどん進んでても何がなんだか・・・。ホントにこっちであつてるのか？ずっと真っ直ぐの道で、周り田んぼな
んだけど、家すらないぞ。

From 「タケシ」

題 「」

本文 ……もうだめだ折れどこを走ってるかわからないなんでみち
がこんなにつづいてるんだよおかしいよだめだおれもうつかれ

From 「サトミ」

題 「怖い・・・」

本文 ……言われたとおり一本道通ったけど、何もないよ？もつと
先？なんか急に日が暮れてきちゃったよ？おかしいよ・・・。今ま
だ十二時前なのに・・・。怖いから迎えに来てよ
お・
・・。

From 「アツシ」

題 「なんか」

本文 …おい、お前マジでさっきの道であつてたのか？何も無いぞ？

From 「カズヤ」

題 「何だここ？」

本文 …なあ、さっきから気になってたんだけど、さっき夕暮れみたいになったと思つてから、全く日が沈まないんだ。なあ、これ、この前お前が話してたのと同じだよな？

From 「シンヤ」

題 「何か全然暗くならないな」

本文 …マジで以上強化？さっき日が暮れてから、全然日が落ちないぞ。てか、全然元の道に戻れねえ。

From 「アツシ」

題 「」

本文 …マジで変なことになった。自転車漕いでも漕いでも前に進まねえ。お前まさか騙しやが

From 「サトミ」

題 「」

本文 …助けに来て！本当に！怖い！前に進めてるのかももう解らない！何かに飲み込まれるみたいになかん

From 「シンヤ」

題 「」

本文 …何にもない。ここはどこだ？まさか本当にあの話を聞

いたからか？もうだめだ。お前俺を実験につか

From 「カズヤ」

題 「」

本文 …そうじゃねえよ！お前俺を試しに使いやがったな！？
テメエマジふざけん

ここで彼等からのメールは全て途絶えた。

現在一時過ぎ。彼等は、全員“黄昏”の中に消えたようだ。

黄昏の街。

それは僕の住む街に昔から伝わる噂であり伝説。

親はそれを子に伝えないように勤め、子は知れば目を瞑り耳を塞ぎ、
身を丸めて体を振るわせる。

黄昏の街。

ある一本道。

それを、通り抜けた先。

それに、黄昏の街がある。

そこは常に黄昏に包まれていて、淡い光が溢れている。

その光は街に入った者を外に出さず、入ったものは二度と外に出
られない。

そして、

この噂を聞くと黄昏の街に足を踏み入れることになる、との事。

お分かりの通り、僕は全員にこの話をした。勿論、『この噂を聞く
と』の下りは教えずに。

解ったことは、やはり誰も帰ってこない、ということ。

それから、なぜかそれぞれの時間がずれている、ということ。

その理由は解らない。コレからもつと調べる必要があるそうだ。

黄昏の街への入り口は、普段無い交番の隣の一本道。が、コレが常にそうであるとは限らない。

彼等を僕の家遊びに誘う、という口実で呼び寄せた。

勿論、他に人が来るとは伝えなかった。だからおそらく、彼等は僕と二人で遊ぶことを予想していたのだろう。

説明する必要は無かった。

“黄昏の街”に皆吸い寄せられると確信していたから。

その確信には理由があった。

前に、僕の妹が

そんな事はどうでもいいか。

ともかく、そういうことだった。

ただ、一つ。

ただ、

クラスメイト数人が一氣に行方不明になって、それも全員が僕の家に来る途中だと知れた場合、

僕が怪しまれるのかなあ、と、

少し、

そのことに少しだけ、

後悔した。

（後書き）

「ピエロの話」同様、作者自身書いてよく解らなくなりました。もっと詳しいヤツを暇があつたら書こうかと思ひます。なんにせよ、楽しんで頂ければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8261a/>

黄昏の街

2010年11月5日07時34分発行